

【企画もの】

文房具はどう剥げるか？

1. 概要

文房具を使い続けると塗装が剥げてくる。ペンの握り方であったり、持ち主の扱いの丁寧さであったり、その理由は様々である。ではその剥げ方には、規則性や共通点があるのだろうか？ 本企画では、文房具の剥げ方について、剥げる場所、使われ方などから考察していく。

2. 結果

著者とその周りの友人、家族の持つ文具で塗装の剥げた文具を集めた。その中で特に多かったのはシャーペンと定規、ボールペンであった。画像は集まった文具の一部である。

【シャーペン】



上図2点) クルトガ/プレゼント/6,7年以上使用

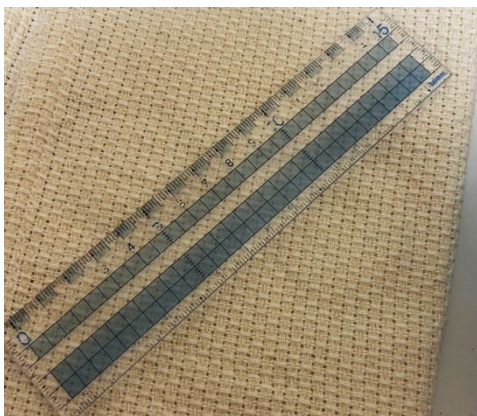


上図) テーマパークのシャーペン/お土産/20年以上使用

下図) アニメキャラクターモチーフのシャーペン/中高生の頃から使用



【定規】



【ボールペン】



上図) パイロット アースミュージック&エコロジー×ハイテックCコレット

下図) 上 ゼブラ プレフィール、下 サラサセレクト



上図) スタイルフィット

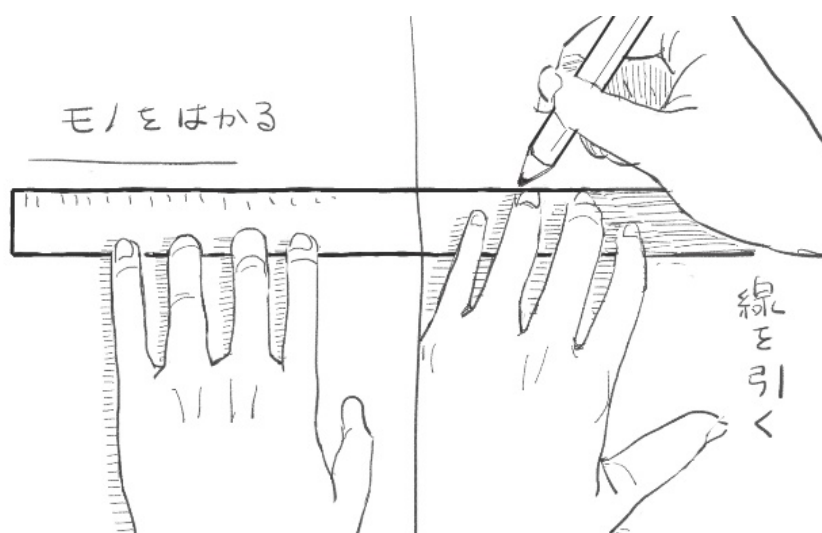
3. 考察

シャーペンやボールペンについて、予想では握る部分（ペンの中腹）が剥げるだろうと考えており、実際そのような剥げ方をしたペンが多かったのだが、一方で縦に線が入ったもの

やとところどころ細かく塗装が削れたものなどもあった。手の脂によるハゲが一番の要因であるが、もともとの塗装の切れ間から剥げたり、筆箱の中で当たって細かい傷がついて剥げたりすることもまま多いようだ。また剥げながらも使い続けるペンはお土産であったり、プレゼントであったりするものが多かった。

私自身あまり予想していなかったが、定規のハゲが意外と多かった。特に面白かったのが

画像の定規のハゲ方の違いである。左は主に目盛りが、右は真ん中の部分が大きく剥げている。左は主に線を引くために、右はルーラーとして使われているため、触り方によってこのような違いが生まれたと考えられる（右図参照：筆者描画）。



デザイン而定規を選ぶかを用途によって決めれば、長い間綺麗に使うことができるかもしれない。

4. まとめ

この企画をまとめるにあたって、同年代の人に主に協力をしていただいたが、ほとんどの人が塗装の剥げた文具を筆箱の中に持っていた。見栄えが悪くても買い換えない理由は結局何だったのだろうか。プレゼントだったり、お土産だったり、好きな柄だったり・・・、捨てるに忍びないという理由かもしれない。または、機能する文房具なら何でも使うというだけの理由かもしれない。もっと様々な年代の人に聞いてみる必要があるようだ。

ただ、文房具はいずれも持ち主の使い方によって唯一無二の剥げ方をしている。そのために、何となく愛着が湧いて手放せないのかもしれない。

■本稿書誌情報■

(本稿は無記名原稿)

『文具に関する論考と企画：奈良女子大学文具ゼミ 2020』

〔2020年度「文化社会学演習」WEB版報告書〕 <https://bungu-narajo.org/>

2020年8月1日 編集・発行 国立大学法人奈良女子大学文学部

人文社会科学文化メディア学コース 小川伸彦研究室編

〒630-8506 奈良市北魚屋西町 E-mail ogawanobuhiko@cc.nara-wu.ac.jp